

2022年度「事故速報」(対象：幼児、小学生、中学生、高校生、一般)

(注) その月に報告のあった事故をまとめた速報です。

2022/11/11

No	発生日	報告日	学年等	性別	経験年数	病名	重大 準重大	場所 状況	技名等	概要	事故防止の指針
1	4/17	4/19	高3	男	4年11ヶ月	脳しんとう	—	試合	大外刈り	相四つの相手に片襟の大外刈りで投げられた。技に反応して体さばきをしていたため、体側面から畳に落下し、側頭部を強打した。	コロナ禍が継続していることを踏まえて、日ごろの練習から基礎体力の向上や受け身や技の習熟に努め、無理な技をかけない指導を徹底する。大会主催者も試合で脳しんとうが増加していることを踏まえて、大会前に啓発の予防指導を充実させる。
2	5/3	5/4	中3	男	6年8ヶ月	脳しんとう	—	試合	背負い投げ	試合中に相手の背負い投げを受け、防御し倒れた際に側頭部を打って受傷した。	
3	5/5	5/17	高2	男	4年2ヶ月	脳しんとう	—	試合	裏投げ	試合中に相手から裏投げを掛けられ、後頭部および背部上部から落下して受傷した。	
4	5/7	5/10	高3	男	5年4ヶ月	脳しんとう 頸椎しんとう	—	試合	大外刈り	試合中に相手から両袖を絞られた状態で大外刈りを掛けられ、後頭部から落下して受傷した。	
5	6/4	6/4	中2	男	5年2ヶ月	急性硬膜下血腫 脳浮腫	準重大	練習 (合同稽古)	大外刈り	受傷者が大外刈りを掛けにいったところを返され、頭部を畳に強打して受傷した。	コロナ禍の事故の特徴として、一定の経験年数のあるものが試合や合同練習で頭部打撲を起こしている。これはコロナ禍によって十分な練習やトレーニングが不足していること、所属内の感染や濃厚接触等により、他校との練習量に差が生じていること、経験のあるものは、十分に練習ができていた時の感覚で試合等に臨むことなどが考えられる。今後も同様の事故が発生することが危惧される。引き続き基礎体力の向上や受け身や技の習熟に努め、無理な技をかけない指導を徹底する。大会主催者も試合で脳しんとうが増加していることを踏まえて、大会前に啓発の予防指導を充実させる。
6	6/5	6/5	中3	男	2年2ヶ月	脳しんとう	—	月次試合	—	月次試験の試合時、相手に投げられそうになった際に、うつ伏せの姿勢でこらえ、畳に額を打って受傷した。	
7	6/11	6/20	高2	男	9年8ヶ月	裂傷（出血）	—	試合	—	試合中に場外際で技を掛けた時に相手から返されて、側頭部を畳の外の床に打ち付け受傷した。 (側頭部裂傷による出血)	
8	7/22	7/28	中2	女	1年2ヶ月	急性硬膜下血腫	—	試合	大外刈り	試合で相手に投げられた。試合終了後、6～7分後にフロアに座り込み倒れた。大会ドクター診断の結果、「意識レベル低下」から救急搬送された。	
9	9/26	9/28	小5	男	1年3ヶ月	急性硬膜下血腫	重大	練習	大外刈り (返された)	上級生（中1女子）と乱取り稽古中、受傷者が大外刈りを掛けたところを返され、後頭部を畳に強打して受傷した。	コロナ禍がゆるやかに終息に向かうこれからの練習や試合等で頭部打撲の重大事故が発生する危険性が高まっている。本件は過去に柔道事故ではないが脳内出血の病歴のある小学生が投げられて急性硬膜下血腫で意識不明の重篤な状態に陥ったものである。過去に脳内出血の病歴（柔道の事故に限らず）のある場合は、経過年数によらず基本的に柔道の実技は行わないことを徹底する。柔道を始める時、練習環境や指導者が変わる時には、必ず健康状態や既往症の中の脳内出血等の病歴を確認する。
10	10/18	10/20	一般 (35歳)	男	12年0ヶ月	急性硬膜下血腫	重大 【11.1死亡】	試合	払い腰	試合で相手から払い腰を掛けられ、同体となりながら倒れ込んで、側頭部を強打、受傷した。意識喪失、嘔吐の症状により救急搬送された。	受傷者は初段で12年間の柔道経験があり試合で投げられて側頭部打撲による急性硬膜下血腫が原因で死亡に至った。コロナ禍の特徴として経験年数の長いものも事故を起こすケースがみられる。コロナ禍の2年間以上のブランクにより、身体面、体力面だけではなく、精神面など様々な要因が影響を及ぼし、事故につながっている可能性が考えられる。コロナ禍が終息に向かうこれからの練習や試合で頭部打撲による重大事故の発生する危険が極めて高くなっている。こうした現状を踏まえ、特に試合では大会運営上、一層の事故防止対策や啓発活動が徹底の重要である。
11	10/21	10/22	小6	男	5年10ヶ月	急性硬膜下血腫	—	練習	払い腰	合同稽古の乱取り稽古中に、大内刈で投げられて、その場は立ったが、直ぐに頭が痛いとうずくまった。	今年度後半に入り、頭部打撲による急性硬膜下血腫が急増している。今回は重大事故には至らなかったものの、すでに死亡事故も発生しており、今後も練習や試合で頭部打撲による重大事故の発生する危険が極めて高くなっている。こうした現状を踏まえ、日常の練習においても一層の事故防止及び安全指導の徹底が重要である。
12	10/20	10/24	小4	男	5年6ヶ月	脳しんとう	—	練習	大内刈り	約束稽古の乱取り中に、大内刈でもつれ場外まで移動、受傷者の身体は畳上で止まったが、頭部が板の間に出てしまい左後頭部を打ち受傷した。	

- 【凡 例】
- 「重大」（重大事故）：「頭部外傷、頸椎損傷、熱中症などにより死亡もしくは重篤な後遺障害が生じた事故（見舞金支給に該当する事故）」
- 「準重大」（重大事故に準ずる事故）：「頭部外傷、頸椎事故、熱中症により手術、もしくは長期間の入院をした事故、その他事故抑止のための参考となる特異な事故」

【全柔連見舞金制度】 全柔連は、見舞金制度を設けており、その費用（600円）は登録時に支払ってもらっています。一部には、大会に出場しない、昇段しない等の理由で登録しない競技者も見受けられます。柔道を安心して楽しむために、柔道をやられる人は全員、登録（見舞金制度加入）をお願いいたします。
